

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇中央区「2019年子どもとためす環境まつり」に参加

## ■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(40)

木下 清隆

## ■編集後記

## ■トピックス1

## 中央区「2019年子どもとためす環境まつり」に参加

9月28日(土)に中央区立明正小学校で行われた中央区環境保全ネットワークが主催する第16回「子どもとためす環境まつり」<sup>※1)</sup>にブース出展しました。塩ビ工業・環境協会(VEC)は、今年で11年連続参加しました。



会場の入口

中央区環境保全ネットワークは、「中央区内の在住勤務の区民・企業・行政が連携・協働して中央区の環境保全に取り組み、より良い地球環境を次世代に残す」という目的を掲げ、中央区内の小学校を会場にした体験型環境学習イベントなどを主催しています。「子どもとためす環境まつり」は、2003年から開催され、今年で16回目を迎えました。VECは「NPO 法人持続可能な社会を作る元気ネット」と共同で参加したことを契機に、この活動に共感し、環境学習の応援として参加しています。

VECブースでは、塩ビ製品が身の周りの様々な場面で利用され、暮らしの中で役立っていることを理解してもらうため、耐久性があり、長寿命でリサイクル性能に優れている塩ビパイプ、断熱性能に優れ省エネに貢献する樹脂窓、何度も繰り返し使用したテントシート生地から再利用(リユース)したトートバッグなどを展示しました。会場を訪れた方には実際に触ったり、説明を聞いたりして塩ビ製品のよさを実感していただきました。特に、パフェや寿司など食品サンプルは人気が高く、色が鮮やかでソフトな感触があって本物と見間違えるほどで、パイプや消しゴムと同じ塩ビ素材とは思えないと驚きの感想を漏らされている方が多くいました。



会場の様子

今回は、塩ビのリサイクルを通して環境学習を体験してもらうクラフト教室を開きました。工場で余った塩ビ製テントシート生地の端材をいただいてきて、それを再利用（リユース）してブース内でオリジナルのストラップを作るものです。材料のテントシート生地は、帆布又はターポリンとも呼ばれていて、今回用いたシートはポリエステル繊維と表層が塩ビ樹脂（PVC）からつくられており、丈夫で耐久性があって防水性や汚れにくいなど優れた特長があります。



VEC ブース展示の様子



ストラップと工作教室の様子

クラフト教室では、15mm幅、長さ60～80cmにカットしたシート（青、緑、黄、茶色、ストライプ柄など）を事前に準備しました。子供たち一人ひとりに好きなストラップ生地とそれに取り付けるチャームの種類を選んでもらい、それからスタッフが手伝って切り抜きや貼り付けなど作業し、最後に金具を取り付けて

オリジナルのストラップが完成。子供たちから大きな歓声があがりました。

今回の出展には[早稲田大学学生NPO環境ロドリゲス](#)の方々にスタッフとして参加していただき、シート生地のカット作業、カシメやハトメという金具の工作などやや煩雑な作業を担当して頂くと共に、デザイン工作では子供たちとの交流に努めるなど大変お世話になりました。お蔭をもちまして、今回のVECブースには約100名の子供たちが訪れ、盛況のうちに終わりました。

また、昨年に引き続き今年も「子どもとためす環境まつり」をサポートするサーモンプロジェクト<sup>\*2)</sup>の子どもたちが各ブースを取材しました。当ブースにも訪れ、展示した塩ビ製品の話の聞いたり手で触ってみたり、クラフト教室に参加しながら、塩ビという一つの素材でも軟らかいものから硬いものまで、透明なものから色彩があるものなどいろいろな特徴があることを知っていただきました。

中央区環境保全ネットワークは「[平成30年度 東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞](#)<sup>\*3)</sup>」において「特別賞」を受賞し、表彰されました。これは、同会が「子どもとためす環境まつり」等における長年の取組が中央区社会福祉協議会の推薦により審査を受けて東京都より「特別賞」の授与に至ったものです。この受賞を受けて、今回のイベントで同会から「子どもとためす環境まつり」に参加・協賛している団体・企業等に感謝状が贈られ、VECもいただきました。次世代へ向けた環境問題へのより理解を深めることを目指さず同会の活動趣旨に賛同し、引き続き応援していきたいと思っております。

最後になりましたが、お世話をされた実行委員会の方々の努力で今年も無事に終わまし

た。関係する方々に感謝いたします。

また、当ブースのクラフト教室に関して制作企画にご助言をいただいた[日本テントシート工業組合連合会](#)、並びにテントシート生地を提供いただいた[大一帆布（株）](#)の方々に深く感謝いたします。

※1) 主催：中央区環境保全ネットワーク、共催：中央区、中央区教育委員会、後援：環境省関東地方環境事務所、東京都環境局、東京商工会議所中央支部、社会福祉法人中央区社会福祉協議会、その他 VEC を含む 40 の企業・団体が協賛し、中央区立明正小学校 PTA、中央警察署、ムゲンシステム（株）、東京カレッジ・オブ・カイロプラクティック、（公財）東京都環境公社東京都地球温暖化防止活動推進センターが協力。

※2) 成長した鮭（サーモン）が生まれ育った川に戻ってくるように、中央区で育った子供がいろいろな経験を通して成長し、大人になって中央区に戻り、活躍してほしい、中央区を活性化してほしいという願いが込められたプロジェクト（主催：中央区環境保全ネットワーク）。

※3) 東京五輪開催を機にボランティア文化の定着化及び推進を中心とした共助社会の実現を目指し、ボランティア活動に関して継続的・先進的な取組を行っている企業・団体等を表彰するもので、平成 28 年度に創設。

## ■ 随想

### ◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（40）

木下 清隆

<前回とのつながり>

神崎櫛田宮の概要を、前回論じたので、今回はこの櫛田宮の祭神について述べることにする。ここの祭神は甚だ複雑で、博多の櫛田神社ほど明確ではない。変貌する祭神名から、この櫛田宮の変遷の歴史が見えてくる。

#### 【櫛田宮の創建と祭神】

以上のような執行氏の著書に記されている内容は、伝承されている史料の紹介と事実の説明に止まっているので、ここで少しこの内容を検討し櫛田宮の創建と祭神について、更には博多との関係等について述べることにしたい。

櫛田宮の創建についてであるが、『肥前国風土記』に明示的に述べられているわけではないことは注意を要する。この土地の荒ぶる神が景行天皇によって鎮圧されたことだけが述べてあるだけであって、荒ぶる神が祀られたとはどこにも書かれていない。これらの神を景行天皇が鎮圧後、当荘を三所大明神処地と定めたとの説は、『櫛田大明神縁起』によるものであり、決して風土記に書かれていることではない。この『櫛田大明神縁起』の制作年代は先に検討したように江戸時代と考えられ、史料としては極めて新しいものである。風土記に櫛田宮の記録がないということは、これが撰進された八世紀前半頃、櫛田宮の存在は明確でなかったことになる。想定されることは、①櫛田宮は存在していたが記録には残されなかった、②存在していなかった、或いは、③見る影もなく寂れていた、等が考えられる。では、本当のところはどうだったのだろうか。

現在、全国に櫛田神社は四ヶ所あることを既に述べたが、その内の伊勢と博多の櫛田神社は六～七世紀には既に存在していた可能性を示した。他の櫛田神社の内、越中の櫛田神社も後で述べるが八世紀中葉には既に存在していたことが確認されており、ここも既に七世紀には存在していたことが想定される。このような結果を踏まえて考えるなら、神埼の櫛田宮も七世紀頃には既に存在していたはずだと云えそうである。理由は、櫛田神社の本来の祭神を櫛玉命とするなら、女神天照大神誕生後にこの櫛玉命を祭祀する神社を創建するなど、普通には考えられないことだからである。従って、この神社の各地への広がり七世紀代には既に終わっていたと考えられる。この櫛田宮が風土記に載っていないのは、先ほど想定のような理由が考えられるが、伊勢の櫛田神社のところで何度も触れたような、「出雲隠し」といった政治的な理由も考えられる。

櫛田宮が七世紀には存在していたことになると、その創建は何時頃といえるのだろうか。風土記に景行天皇の御世に荒ぶる神が平定されたと記されていることから、ある大王がこの地まで遠征し、土地の豪族と戦いこれを打ち破ったとの伝承が、長く云い伝えられていたのかもしれない。この櫛田宮で注目されるのは、目と鼻の先に“吉野ヶ里遺跡”があることである。櫛田宮と吉野ヶ里とは長崎本線をはさんで三 km くらいしか離れていない。平成時代になってやっと終わった長い発掘作業によって、ここが日本でも最大級の弥生時代の環濠集落遺跡であることが判明した。このような大遺跡と、櫛田宮の創建とは何か関係があるのかも知れないが、確かなことは分っていない。いずれにしてもこの櫛田宮が、いつ、なぜ創建されたのかは難しい問題である。



吉野ヶ里遺跡

櫛田宮は七世紀にはすでに存在していた。しかし、八世紀に風土記が編纂される頃には、その姿を殆ど消してしまっていたと考えてみよう。そうすると、現在に伝わっている新生櫛田宮の創建は何時のことなのか、を考えればよいことになる。明確なことは当然判らないが、それは神埼荘が形作られていく九世紀以降のことと推定される。理由は主祭神とされる櫛稻田姫にある。櫛稻田姫の名が世に知られるようになるのは『日本書紀』が一般に知られるようになった八世紀以降と考えられるからである。素戔嗚尊とワンセットになっている櫛稻田姫の話は、出雲国に降り立った素戔嗚尊が、この姫を助ける八岐大蛇神話として良く知られているものである。ところが、この記紀に出てくる有名な物語が『出雲国風土記』には全く記されていない。このことの意味は、このような神話が出雲地方には伝承されていなかったか、或いは伝承されてはいたが風土記では削除されたかの何れかとなるだろう。松前健氏は『日本神話の形成』のなかで、このような神話の母体となった話は出雲地方にはあったが、風土記が本来、地名起源説話的な性格であったこと等から載らなかったとしている。何れにしても櫛稻田姫が、記紀以前に全国的に知れ渡っていた可能性は殆

ど無かったと云えよう。このような状況から考えると、景行天皇時代とされる最初の櫛田宮の祭神が櫛稲田姫であったとするのは、有り得ないことになる。従って、現在の櫛田宮に櫛稲田姫が当初からの祭神であると伝承されていることは、櫛稲田姫が全国的に知られるようになった後に櫛田宮が再スタートしたことを意味していることになる。その時期は勅使田が生まれた九世紀以降、院の御領としての神埼荘が形成される十一世紀頃までの間と考えられる。素戔鳴尊が朝廷に認められるようになるのは、後に述べるように十世紀末から十一世紀初頭にかけてであり、この頃、素戔鳴尊と共に櫛稲田姫の名も良く知られるようになっていたと考えられる。従って、再生櫛田宮のスタートは十一世紀前葉と考えられよう。

ではなぜ櫛稲田姫が祭神となったのだろうか。それは本来の祭神が櫛玉命であったことと、社名が櫛田であったことによるのではなかろうか。要するに語呂合わせで新しい祭神が決められたのであろう。そうでなければ櫛稲田姫を祭神にしなければならない理由が全く見当たらないからである。出雲地方の穀物神とも考えられている櫛稲田姫と肥前とは何の関係も無いからである。素戔鳴尊とも関係は無い。もし景行天皇の巡幸と荒ぶる神の平定が本当なら、景行天皇を祭神にすれば良いし、さもなければ、その御子日本武尊を祭神にするほうが、まだ筋が通っている。しかし、そうっていないということは、櫛稲田姫が櫛玉命との語呂合わせから選ばれた可能性が極めて高いことを示唆している。

このように考えてくると、櫛田宮において三柱の神が祀られている意味が、おぼろげながら理解されてくる。主祭神の櫛稲田姫は以上の説明のとおりであるが、高志神については執行氏の説明が無いところからよく分からない。もし、この神を素戔鳴尊の別名とするなら話は簡単になるが、明治になって高志神を引っ込めて素戔鳴尊を登場させたということは櫛田宮側でもそのような認識があったということであろう。白角折神<sup>おしとりの</sup>についても明治になって日本武尊に替えられており、このように伝承されていたということであろう。

この櫛田宮もここで想定しているように、櫛玉命が祀られていたとすると、この三柱の神の中に博多の場合と同じように、櫛玉命が隠されている可能性はある。博多の場合は男神天照大神に替えられたとしたわけであるが、神埼の場合、天照大神は祀られていない。では、日本武尊がそうなのだろうか。日本武尊は櫛稲田姫と素戔鳴尊の二神とは全く素性の異なる神である。可能性として櫛玉命と関係があるのかもしれないが、もし関係があるとすると、或は、同一だとすれば、

櫛玉命＝日本武尊

となることになる。これは驚くべき仮説であるが、このようなことが成り立つとするなら、櫛玉命が記紀編纂時に日本武尊に名を変えられたとでもしなければ辻褄が合わない。日本武尊については父の景行と共に創作された人物であり、実在しなかったとする説が一般的であるが、櫛玉命の別名であるとする仮説の成り立つ余地は残されているといえよう。ここではこのような可能性があるとする程度に止めておきたい。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)  
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

「PVC Award 2019～新しい時代を Create する PVC 製品～」を現在開催しています。募集期間は、6月1日から10月31日まで。今回は、PVCが持っている優れた特長を活かした魅力ある商品を募集しています。対象は軟質から硬質まで幅広く、商品化を予定している試作品も募集しています。多くの応募をお待ちしております。

応募様式は、webをご参照ください。 <http://pvc-award.com/>

(PVC Award 事務局)

### 過去の受賞製品



プッシュン



サクラ

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)